

第1回実践的防災学シンポジウムを開催しました（2017/2/27）

テーマ：実践的防災学、官民組織、復興、コミュニケーション

場所：東北大学災害科学国際研究所 多目的ホール（宮城県仙台市青葉区）

2017年2月27日(月)午後、災害科学国際研究所主催で、第1回実践的防災学シンポジウムを、当研究所1階多目的ホールで開催しました。当日は、約60名の方にご参加いただきました。

まず当研究所の今村文彦 所長が開会の挨拶を行い、続いて本シンポジウムの企画・運営を担った総合減災プロジェクトエリアの減災社会実装ユニット長の丸谷浩明 教授、及び同エリアの減災・復興デザインユニット長の村尾修 教授より、それぞれ趣旨説明を行いました。

第1部は、「被災教訓を活かした官民組織の災害への備え」をテーマに、以下の教員がそれぞれの研究活動と実践的防災学との関わり等について発表をしました。続くパネルディスカッションでは、丸谷浩明 教授をモデレーターとして、各発表者が今後の研究連携についてコメントをしました。

- ・島田明夫 教授（人間・社会対応研究部門）：東日本大震災の防災制度の教訓の活用
- ・丸谷浩明 教授（同上）：企業・公的組織の被災教訓を活かした事業継続
- ・寅屋敷哲也 助教（同上）：災害に備えた企業と行政の連携
- ・佐々木宏之 助教（災害医学研究部門）：医療機関の災害対策・BCPの現状
- ・地引泰人 助教（リーディング大学院）：大崎市を事例とした官民連携の防災のあり方についての予備的考察

第2部では、「地域の復興とそのデザイン手法」をテーマに、以下の教員がそれぞれの研究活動と実践的防災学との関わり等について発表をしました。続くパネルディスカッションでは、岩田司 教授をモデレーターとして、復興の現場で得た知見や国際比較の意義等について意見交換を行いました。

- ・岩田司 教授（地域都市再生研究部門）：住まいの復興とそのシステム
- ・平野勝也 准教授（情報管理・社会連携部門）：復興まちづくりに必要な備え
- ・小林徹平 助手（同上）：東日本大震災の地域復興支援
- ・井内加奈子 准教授（人間・社会対応研究部門）：台風ハイアンからの復興における移転政策とコミュニティ
- ・マリ エリザベス アン 助教（同上）：日本とアメリカの住宅復興政策の比較：ハリケーンサンディを事例に

第3部では、「情報・コミュニケーション・知識の共有」をテーマに、以下の教員がそれぞれの研究活動と実践的防災学との関わり等について発表をしました。続くパネルディスカッションでは、村尾修 教授をモデレーターとして、教育や自治体の現場で得た知見や現場への技術の活用等について意見交換を行いました。

- ・寺田賢二郎 教授（地域・都市再生研究部門）：意志決定のためのシミュレーション・GIS・可視化
- ・杉安和也 助教（リーディング大学院）：大学における教育プログラム
- ・佐藤健 教授（情報管理・社会連携部門）：地域資源を活用した防災教育の有益性と発展性
- ・泉貴子 准教授（同上）：防災における大学の役割：科学技術の貢献とその共有
- ・佐藤翔輔 助教（同上）：現場で生まれる・磨く実践的防災学

文責：寅屋敷 哲也（人間・社会対応研究部門）
（次頁へつづく）



第1部 パネルディスカッション



第2部 パネルディスカッション



第3部 パネルディスカッション



会場の様子